



拾遺和歌集

上

雜物別頁  
名

神樂所  
長  
紙

特別  
イ 4  
3163  
6(1)





貴  
14  
3/63  
6(1)



○公任公前按察大納言正三位集三右忠智上り  
関白太政大臣教忠云原義公此曾母六代明親王  
此心すもせり四系大納言と云ふ

満徳  
通舎  
久



拾遺和音集二十卷

哥負八雲云子三百五十一首袋草子同之

八雲御抄云長徳公任公撰之歎花山法皇御撰  
後拾遺集序通俊云花山法皇ハヤヨリ少少の集りし  
了をよひひりく於遺集名つりしは但新古今序の  
趣古花山院御撰と云ふ

花山法皇御諱師貞冷泉院有一皇子御母謙徳云御  
太后宮懷子 永観二年十月より御位は後白河  
寛和二年六月廿二日おろし花山寺より西より  
御集十九法諱入寛寛弘五年二月八日おろし  
大和御借小山ハ帝乃御代の御集

代衣子瑞云遠言云古今後撰拾遺を三代集と号  
以往ハ芳集と号ハ三代集と号より拾遺出あり  
一万集と号と於遺と号あり







春ぞらたわらぬ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて  
けいふ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて

みゆ

春ぞらたわらぬ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて  
けいふ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて

天曆十年二月廿九日田裏新合

中細言朝忠 三六石大下忌

雪乃 傷あはせぬ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて  
けいふ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて

相立合 天曆十年二月廿九日

大伴家持 大朝言旅人男從三位 中納言

雪乃 傷あはせぬ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて  
けいふ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて

雪乃 傷あはせぬ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて  
けいふ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて

ついで梅 紀堂行男

梅枝 花あはせぬ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて  
けいふ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて

梅枝 花あはせぬ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて  
けいふ<sup>京</sup>の<sup>京</sup>花をまきこころはらりて



さくらもくろ

平重盛

兵部大輔 篤行男 從五位 駿河守

つをよの梅のま枝をみゆじあいのうらふ春のさよ

つをよの帝の女 見る内政ま  
舟院御屏風よ ころ祢

も然りて誰かさし梅の花あけのすこころさる

こころやうゆ  
とらりれりすこゆる久前舟院御屏風よ

河海一条北太宮西一条高乃中許

ほのめさ

島乃つらさよしあめのいれさとしもよと日記をひら

歌くらん 人丸

何すくまれつむじの息あいのつるまふさるわが

ちんし  
直作を大匠乃家の屏風より

貫之

野をみまぬれつなむじ下りりゆさの系しあの玉子

まのま 浴浴りく 園輔院御製 六十四代村上皇太子

去の野よあけくろさつこいまとおつせぬ物新あけり

歌くらん 大伴家持

春乃野よあけさつさつこの妻あいはとのあわら成金丸

皇太后宮 穗子 延喜后  
おゆまささつろ文り宮田さつあんのまふゆ

醍醐 帝  
町あいのみりこのあよまふあひまらほめ

人片らみ紫し雲のまらえれし宵とら山様の

いつまらうりけぬ







こゝろすれ風のよめを柳のつとちちとみ風めを

屏風

大申后結直

地くて我もよはれははあけわよの急りりてきる筋

歌

凡河内躬恒

高柳はれこのつとちとわあそよめよはくきさのよ

漂音色し俗なれまらふり

よえん今

花みよひまこいぬまこし高柳のつとちとあつた

みよあめとくれくゆるるるる事よにわ

あ

申務

或は敦實教王女  
母伊勢

さけらるるつとちとあつたつとちとあつたつとちとあ

題

おろし人

去野山つとちとあつたつとちとあつたつとちとあ

天曆九年内裏舟合

よえん今

さけらるるつとちとあつたつとちとあつたつとちとあ

題

吹風よあつたつとちとあつたつとちとあつたつとちとあ

菅家万葉集の中

後みよあつたつとちとあつたつとちとあつたつとちとあ

歌

よえん今

木



芳野の美しき雪をこぼしてはみねつとよはく梅をわき

作者部原三代明教王女 養俊伊衛守

天曆中時簾景殿女御の御侍更衣の奇合

ゆづりよ

清原元輔

次長父孫

春の雪をみればはるかに花の命をみればはるかに

平さるゆづりよの奇合

平らみ孫

春の雪をみればはるかに花の命をみればはるかに

賀正屏風

藤原子景

弘安守子景子立位

春の雪をみればはるかに花の命をみればはるかに

天曆中時簾景

平らみ孫

忠子

春の雪をみればはるかに花の命をみればはるかに

大和守 家集石上山田うらみあり

新しき

左原元方

棟梁子

春の雪をみればはるかに花の命をみればはるかに

康平年中中宮の御侍 結々時の屏風

新文四侍

春の雪をみればはるかに花の命をみればはるかに

宰相中將敦忠別当家屏風

家集二六五丁のちと

新文四侍

春の雪をみればはるかに花の命をみればはるかに

秋院屏風山みらりり人あふふ 十一 伊藤







屏風

のぬ

教うに花は見えよとてついでに花のしほりもみよ

歌一ら歌

よえん命あま

又とけくひとせよいらる花よもえん命あまの舞

延喜寺時存臺の清原命のこしり

物とよめく宿丹をほくたらの物まよとて花のし

わきこころん介はくまるとけのまよはくく

さねてれくゆきるとえん命

惠慶法師

後芽糸ぬあまの宿の揚むをくくを風よりらる舞

未考  
秀ぬぬ文のこしり

裳著八田男子の衣服下はり  
腰結よとて人裳をさるなり

ついでに

延喜寺  
中後上かよふとてこしり

まゆくまぬぬあまの宿の揚むをくくを風よりらる舞

其子院哥合り

七条坊門西洞院にて  
寛平法皇御所也

舞らるる花のしほりもみよとてついでに花のしほりもみよ

歌一ら歌

よえん命あま

またのしら花はくくくくくくくくくくくくくくくく

天曆寺時存命  
小貳命女

またのしら花はくくくくくくくくくくくくくくくく

歌一ら歌

よえん命あま







花よりみちりあけの宿は移くまはれあはれにわかれぬを  
国三月のけしきついでにわかれよ

見川孫

つれづれのことなきあけの宿は移くまはれあはれにわかれぬを  
わが子にわかれ

拾遺和歌集巻第二

夏

天曆神時乃奇合よ

大中臣能宣

けしき移りてあけの宿は移くまはれあはれにわかれぬを

屏風より  
あけの宿

我宿のけしき移りてあけの宿は移くまはれあはれにわかれぬを

冷泉院乃あけの宿は移くまはれあはれにわかれぬを

あけの宿は移くまはれあはれにわかれぬを

源重三

本集三巻和二年十月前  
兼盛院のまきのほまき  
の日の科のほまき







平云識

陸奥守九年子

みねとらあり梅より吹くや海風の音も驚かす

都へは

ふらん今も

卯酉のけりかき〇みらわくのまゝもろく鴨の浪も

近き津時月次津屏風より

久川祿

百祿の正女をうへたり又いふを  
しらすと具も軒とよみのあはれうへたり

神より内よきけおみればをまらんとす祿もはれ

つと梅よ

祿もろくをれぬれ白州のみにくくはあやま

都へは

ふらん今も

おののけりかき〇みらわくのまゝもろく鴨の浪も

卯酉のけりかき〇みらわくのまゝもろく鴨の浪も

あはれぬれ白州のみにくくはあやま

あはれぬれ白州のみにくくはあやま

都へは 久米廣縄

あはれぬれ白州のみにくくはあやま

近き津時月次津屏風より

つと梅よ

あはれぬれ白州のみにくくはあやま

都へは

ふらん今も



萬の心成るる事世に郭公とて今もあはれに思ふ

天曆時哥合り

坂上聖城

か敷介是則男

警難よそ鳴とてけけり郭公み山とてうらたれおれ

平惠盛

み山とて和来よるまらる時多ゆふよけり後みさ

寛和二年日裏哥合り

右大將道徳母

陸奥守倫母女  
前家北の方天十三人  
ノ美人

都人移るるあやあきまひのそよよあはれ

女宮のみこの家哥合り

坂上是則

郭公とてあはれに思ふ事今もあはれに思ふ

天曆時哥合り

壬生忠見

さあけりし縁えさりせり郭公つらきよとて思ふ

天曆時乃而屏風

伊珠

あはれに思ふ事今もあはれに思ふ

あはれに思ふ乃屏風

源忠朝長

又其國記男右大弁

日忠家集三初出山主のれり上の屏風  
心を二印し人の都とてあはれに思ふ

家集三初出山主のれり上の屏風

郭公とてあはれに思ふ事今もあはれに思ふ

古吟日記二山星三向う女郭公とてあはれに思ふ







郭公のいふはつてあるよ

しゅん

郭公のいふはつてあるよ  
さういふはつてあるよ  
さういふはつてあるよ

みゆ

郭公のいふはつてあるよ  
郭公のいふはつてあるよ  
郭公のいふはつてあるよ

郭公のいふはつてあるよ  
郭公のいふはつてあるよ  
郭公のいふはつてあるよ

大伴海上節女

郭公のいふはつてあるよ

中務

郭公のいふはつてあるよ  
郭公のいふはつてあるよ  
郭公のいふはつてあるよ

延喜寺時中宮哥合

いふ

郭公のいふはつてあるよ  
郭公のいふはつてあるよ  
郭公のいふはつてあるよ

藤原實方中將

いふ











拾遺和歌集卷第三

秋

秋のゆくはつらき

安房守

内通以適子

秋のゆくはつらき

秋のゆくはつらき

秋のゆくはつらき

延喜時屏風

つらき

秋のゆくはつらき



河原院よてお遊あつちよ秋まあつちよ  
人こゝろあつちよ 惠慶法師

あつちよあつちよあつちよあつちよ  
安貴王 施基皇子孫 春日王子

秋まあつちよあつちよあつちよあつちよ  
延喜寺時雨屏風

あつちよあつちよあつちよあつちよ  
ついで

あつちよあつちよあつちよあつちよ  
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ  
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ  
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ  
あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ  
あつちよあつちよあつちよあつちよ

延喜寺時雨屏風

七ノ三陣思奇三ノ内ナリ

子かきいづれを子かきいづれを

あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ

あつちよあつちよあつちよあつちよ











いづれも君をよめし家もいとわづらひて  
歎けしとて

あはれも秋のふゆとていづれもいとわづらひて  
少づより待つる時をいづれもいとわづらひて

大貳高遠

わづらひて家もいとわづらひて  
近き時月次所屏風よ

つとむ

おぼろげな月をいづれもいとわづらひて  
屏風よ八月十五夜池わづらひて

源光朝

あはれもいづれもいとわづらひて  
水より月乃御とわづらひて

らぬ

秋の月海のうらみとていづれもいとわづらひて  
廉義我乃家わづらひて

源景明

わづらひて家もいとわづらひて  
殊乃月わづらひて  
西韃院時八月十五夜わづらひて

りし



いづれ彼法乃月より  
他念なく海をこ  
まてよまらなむ

わすのこむけゆくとくはくせむかよとみめ秋の露  
延喜寺時八月十五夜花女行のちたかおと  
月乃えんくはるり

藤原経良

花合所  
あまのまをけさ妹乃月をしずかかむいゆか  
おのり時以屏風よ

又の孫

はなあまをいの月のみまきむけぬかみまはる  
題一は次 かなとわ

秋夜をくしゆえん秋乃月をい乃をまきあはる  
廣義の案よとまじく乃をみ出せり歌  
とるはるる 藤原為頼

あつらひのりくじまの移とるの草花をた  
あまよすしゆとあらはる

伊勢

はなあまをまはるくまをけむかをみか  
屏風より つまむ

秋をねむくまのりあまのまをみか  
影一はす とるか

あまのりやまめり秋乃野よまのりか







みづせの常盤の海まじし鹿とのぬらふも新とま鹿  
くん金とく

梅風あこい分らうくふふたふふ乃新との森乃ある白紙の  
わさせ候うしくわうれと記のつとあはれの候ん  
らひもあうて侍る方ら作保せしめ  
月即あやとわあ何しくは務乃しらとてあて  
侍るれし  
惠慶法師

紅葉入あまけり秋もあけもあはれ乃月わらわらぬ  
新とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
みから候乃とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
大井海よりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
らぬよ

紅葉を候常盤を候あじとあはれとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
新と務乃きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
大井のあま候乃のりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

健守法師

ふらあやみから候よとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
西文大長家の屏風よまのの山とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
さくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

佐助女校ニ申女堂と  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
まよりふよあこいへり



あつふ

名とひびくぬるる山崎の地味はあつふ  
東山は紅葉あつふのあつふはあつふ  
あつふのあつふはあつふ

惠慶法師

あつふのあつふはあつふ  
天曆行時殿のあつふはあつふ  
あつふのあつふはあつふ  
あつふのあつふはあつふ  
あつふのあつふはあつふ

源慈光

あつふのあつふはあつふ

あつふのあつふはあつふ

あつふのあつふはあつふ

あつふのあつふはあつふ

式部三後大僧於延暦寺に

あつふのあつふはあつふ

道氣云々法皇院白氣家二男

あつふのあつふはあつふ

あつふのあつふはあつふ

惠慶法師

あつふのあつふはあつふ

藤原系圖云因白左大臣  
早粟田又二葉

藤原系圖云因白左大臣  
早粟田又二葉



新 一 原 一 見 人 一 下 一 下

まふをいふはしるの山原をあらまふの山原の勢はる

延喜時中ノ宿屏風ノ

らるるまふのつらと株務のつらくいせすまふ

あり 一 下 一 下 僧 山 遍 昭

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

つらとつらと

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

つらとつらと 右衛門督公任

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

つらとつらと

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

杖のわらわのつらとつらとつらとつらとつらとつらと

浄堂殿大井河持設の時乃うらうら







拾遺和歌集卷第四

冬

延喜御時田代乃うまに賀の屏風ふすまなり

延喜御時田代乃うまに賀の屏風なり

紀貫之

わが身乃おれりうまにわまに御時と紀貫之とをわらわ

寛和二年清涼殿おれりうまに河津をるる

一人女うまに

ゆら木よのまへわ梅ありおれりうまに成てくまを御時

時ぬ一侍うまにつ梅うまに

あこしうまにまを御時と成てくまを御時うまにの社うまに

たつら源

續人うまに

神育月御志ぬうまにとての流とてを御時と成てくまを御時

文成天皇

奈良良うまにと龍田川は紅雲流りうまにの流り

つ流りうまにつらつら

掃帚うまに

うら川うまにらあを御時と成てくまを御時と成てくまを御時

らぬうまにらあを御時と成てくまを御時と成てくまを御時

偏正通昭

かき枝うまにむむを御時と成てくまを御時と成てくまを御時

不裁

延喜御時女うまにのみの家うまにの屏風うまに

第一巻と二巻と







そと秋の憶ふよき方か又まなかなん

こころよきとりの羽を感じぬ池のこころあそびは  
くえん金次

あつたよりの物故冬に愛のこころは神物よき  
平意盛

屏風よ

平意盛

かつたよりの物故冬に愛のこころは神物よき  
平意盛

新次

くみん

冬にこころぬ水を流しゆく水瀧のあそび  
まよ

垣徳云家し屏風

太政大臣為光号恒徳云云下師神云子

くみん

冬にこころぬ水を流しゆく水瀧のあそび  
まよ

折二夜を大橋のこころと他の中あはれなり  
詠詠三聲三新花亭鶴

高砂松まよ口鶴冬にぬ水を流しゆく水瀧のあそび  
まよ

新次

紀友則

冬にこころぬ水を流しゆく水瀧のあそび  
まよ

くみん

海らるる水を流しゆく水瀧のあそび  
まよ

庵義我云実障子

冬にこころぬ水を流しゆく水瀧のあそび  
まよ

新次

くみん

冬にこころぬ水を流しゆく水瀧のあそび  
まよ



















大嘗會の御即位後 天照太神ニ帝御ニラまるとありし御代一夜の  
大神事なり土日中卯日 悠記玉基の言と云ふありしききまに  
玉都とを江丹波楠中守の中少し二紀不ヤト定まるといふも  
袋多紙又一条 懐子伊予公女院淨海院泉鏡女侍  
藤原の抄也 かむの

よん人へす

賜自唐文の西ノ家ノ古書ト書部ノ後平丸  
村吉子

みこ乃き。れん後てりてぬれしめと

つちくゆる 清惠元掬

抄るにきりお思ふるききまのつらぬり  
日次

藤氏のつゆ屋よのりあり

らぬ

あし染られたるききまのつらぬり  
毎朝のつらぬり

若うんや張あ代とありぬり  
毎朝のつらぬり

右大將藤原實資のつらぬり  
毎朝のつらぬり

平のつらぬり

あし染られたるききまのつらぬり  
毎朝のつらぬり

わあ人あつらぬり

らぬ

らせと教ふるききまのつらぬり  
毎朝のつらぬり

藤原誠信元服のつらぬり  
毎朝のつらぬり

徳順

あし染られたるききまのつらぬり  
毎朝のつらぬり

ふかやの七枚  
三枚板七枚板祝表  
アリテありしつらぬり  
俗ニミアノスコシハリ  
ト云ヒヨシト留玉成成まの  
二枚板ニイリ



みまの風げきりかきりし時

寂照野のついでに  
のち

二位以上の祀奉り初め此界まで社へ

いふしりしつとほめしむる後をさしきりて思

天曆乃みしと軍よきあかりしきりし時山

山科寺真福寺也其地也  
山階にありなり和明三年  
其後系不は多建立

階てし金泥壽命経軍千の巻とわし世書

ふりまうりて書巻教鶴よきせくはくふ

あしきくあそわそ乃とく海のしき物よめ

これ奇しあしきよあひりあかめ

うの好とも

おきりおれんはせりてはたかきよあめりあ

仲算法師 — 真福寺僧

おたみりきりしりあきりあきりあ

兼平元年申宮れ賀しつりし時乃屏風

母文四侍

とくの松と女と松と女と松と女と松と女と松と女と

おれりあしきりしりあきりあきりあ

大中長頼基

あしきりしりあきりあきりあ

清慎公五平賀しつりし時乃屏風

しきりあ

漢武帝の時嵩山  
三つの方架とす  
こし史記にみんり  
これよめりや



最良の故何よきとていふは心家の心海あり新しむる  
善哉とあり乃多とくありていふは心家の心海あり新しむる

是れおの屏風の書なり

善哉とあり

いふ者よきとていふは心家の心海あり新しむる  
心家の心海あり新しむる

心家の心海あり新しむる

清和公の御在  
皇白從一位三十五  
位不足利一後  
只身命長を丸の心なり

一保長政中將の侍あり時父長政長乃五平  
一保長政中將の侍あり時父長政長乃五平

小野好古朝臣 大武首長男

院中御名敷忠母の御名一侍あり

源忠朝臣 大元朝臣子

五束の侍乃これ賀民部卿清貴一侍あり

伊保 大和守長女

天徳三年日裏に花宴せざるを信らるる

天徳三年日裏に花宴せざるを信らるる

此集の御在りて  
さし句ありとさあさ  
こころの御在り



九条右大臣 藤原公忠  
貞信

はらへしとていふまじき御めしとせのまはれしとて

是ら御 いん金

あはれつらむ乃まはれし御めしとていふまはれしとて

亭子院号合し みゆ

まらむせよけつて御めしとていふまはれしとて

村上平子 康保三年田原より日せと御めしとて

あはれ 是のまじき和歌つらむまはれしとて

藤原乃らる

つらむ御めしとていふまはれしとて

小野文太政大臣家より御めしとて

あはれ 是のまじき御めしとて

三条太政大臣 藤原

行幸のまじき御めしとて

延喜寺時川扇風 三条河原の扇

つらむ

松波のまじき御めしとて

あはれ 是のまじき御めしとて

乃らる御めしとて

和平安年中文の賀し 約き

六日板の板物消除  
悪鬼降伏の事  
よれ六月の事  
の物にやういふこと  
詔とて公事振源より



衆議伊衛 友京娘行子

こうけいしり事とそけつるる成りりいひの神主ふく

天曆神時前裁のえんせき抄後々時

小野宮太政大臣 佳結云

秀代あらしめ花乃ちされつて建御名尊と云ふ

廣義の家とて人々一哥とせ侍るるよし

られゆのしらのまことと云ふ

平盛

ちせとそまじいりまかにもあつたけしれ都々わらじ

右大臣源頼朝 光二河 頼朝一侍るる

まのまじいり 内々成前 頼朝一侍るる

ゆつららとわらじいりて侍るるよし

つとけふ

美良のねいふみん  
之云の平盛の  
あつたけしり  
へつりしり

まのまじいり 美良のねいふみん

天曆神時清慎云云物とてまのまじいり

侍るる

あつたけしり あつたけしり

あつたけしり あつたけしり

侍るる

あつたけしり あつたけしり



貞儀抄云經言甲里四方の  
山ヲ三年三度栴天ヨリテ  
三鉢衣ヲ捨クナセバ  
何モ一切ヨリ

新しうらた

よかんあつた

赤衣をわかれしうまれまきまひつゝぬる神

賀乃屏風よ

まよひ

うらたのふつふれくも君うみじけ天守りはれ神

まてはくま

### 拾遺和歌集卷第六

別

春はく月がわらふは阿ふまよふと地は糸

毛入行人ニカサレテ海ヨリマシムル人ナリ  
まよふとわらふは阿ふまよふと地は糸

まよふと

まよふとまよふとわらふは阿ふまよふと地は糸

歌よ

まよふとまよふとわらふは阿ふまよふと地は糸

まよふとまよふとわらふは阿ふまよふと地は糸

まよふとまよふとわらふは阿ふまよふと地は糸

貞儀曰言詠曰畏露似  
啼粧











あまのこころをわづらひて  
さる

月影のあつみりともほしき  
若政朝臣肥後守とて  
ひびく

ちよとて  
天曆神歌

天曆神時以れと肥前守  
侍々をせんたよいなるよ  
結いなるよ

天曆神時女子小糸丸  
大臣所舞の女友三作也  
一は花を娘也

いんあつて

梅くんとあつては  
はらけしやうせん殿上のよ  
あつては

神のれと少納言

女苑冬何

わがしら草葉は  
新しうて  
あつて

よる道風を渡して



此の組細ふひひ  
てしり

つらつらと日そやひつるまはれは  
源弘景ヒコカケとてしり

三條天皇太后宮康美公女

此の組細ふひひ  
てしり

きひのふたはゆふまきしんまき  
橘公頼ツキナとてしり  
継母の侍れしり  
うくまの侍れしり

つらつらと

わまのふたはゆふまきしんまき  
つらつらと

紫衣三坂入別  
こまき  
解しり

こまき  
つらつらと

つらつらと  
わまのふたはゆふまきしんまき

つらつらと  
みらつらと

戒秀法師  
作者部記云定額  
花上院殿上法師法系之種子

つらつらと  
藤原のまきしり











草より上りてありす菊のよもひのてふれ

新しき花よみん

意匠のこころめいり草より上りてふれ

源公貞の大陽のわたりてふれ

五月にわたりてふれ

平島威

しるしに花より上りてふれ

秋のふれにわたりてふれ

ふれ

花より上りてふれ

はなより上りてふれ

重之

花より上りてふれ

花より上りてふれ

花より上りてふれ

花より上りてふれ

花より上りてふれ

贈太政大臣

花より上りてふれ

花より上りてふれ

仁明天皇御時人也 兼和四年九月二日 攝御所繪

世々の院 山陽がみ  
若き山陽より母の系  
てよ川をたどりて  
こころく 花より上り

花より上りてふれ  
花より上りてふれ  
花より上りてふれ  
花より上りてふれ







抄ニ馬洩花ナリ

明あひのり

伊現

こころをたはねてあはれを思ふは世にほろひのしる

杜ういひ

いんを

あまのつらさよとくをいりてんねよとつらさるん

和名石楠草トヒラノハ俗サクナシヤニ

さくれじさ

如覚法師

しきぬのちよとくぬしき草花のあまのつら

枕草紙にも出たりあまのつら

ふくみり意ふとぬ花のなと我とつらさるん

竜膽いん

川あはれよとくあはれ海あはれあはれ

いん

あまのつらさるんあまのつらさるんあまのつらさるん

あまのつら

あまのつらさるんあまのつらさるんあまのつらさるん

あまのつら

和名あまのつら

僻字抄ニマナシ  
云ハコトニマナシ  
カクノ歌のチカレハ

あまのつらさるんあまのつらさるんあまのつらさるん

あまのつら

あまのつらさるんあまのつらさるんあまのつらさるん

あまのつら

あまのつらさるんあまのつらさるんあまのつらさるん



いしのくれ

和名鹿の草 菖蒲 万葉 茅

山はさかろいふら松のたけを世とてのこしを針の  
ねじ

龍のまのまきとてついでにあらるまきとてのまき

いし

茅 和名云一名 菖蒲 小言 草也

いしつらつとてつらつとてつらつとてつらつとてつらつとて

つらつとて

柳金をまきつらつとてつらつとてつらつとてつらつとて

おのの松のたけとてつらつとてつらつとてつらつとて

いし

つらつとて

つらつとてつらつとてつらつとてつらつとてつらつとて

いし

古説ニカニテ如草也

つらつとてつらつとてつらつとてつらつとてつらつとて

いし

大和

つらつとてつらつとてつらつとてつらつとてつらつとて

いし

平南野

つらつとてつらつとてつらつとてつらつとてつらつとて

いし

つらつとてつらつとてつらつとてつらつとてつらつとて

山城 新和 樺 木 鶴 社







わすしるしるしるしるしるのまじりまじりてはむらあむらあ

行也 八代無抄ノ一  
津みのけ 抄ノ風ニ 紀捕時

かりかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

しらのま 煙ニ 高向草春

神まひししししししししししししししししししししししし

まこののま すまは交り器具文 相似クリ故名 せけん

らわおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

らぬし 花桿子 仙慶法師

かぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬか

ら 丁 せき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

ら 榛子 智 くらん

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

ね 練傍 熟ニ也 すらあ

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

か 尾張木

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

ま け

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき



くまじり

和名云薑シシナ蔓草苗ナリ  
俗用薑立ニテ

あまうららぬくまじり  
こまじり

あまうららぬくまじり  
うわーまめ 高島相如

あまうららぬくまじり  
きしれをむわ すまじり

あまうららぬくまじり  
あうらぬ 山雀ナリ ほんまらと云ふも同カニナリ

あまうららぬくまじり  
あまうらぬ 和名雀鷄 小雀ナリ

あまうららぬくまじり  
はくえ 和名 鶴 大伴黒直 都塔年唐ノ子 大友皇子四代孫也

あまうららぬくまじり  
あまうらぬ すけえ

あまうららぬくまじり  
あまうらぬ すけえ

あまうららぬくまじり  
あまうらぬ すけえ

あまうららぬくまじり  
あまうらぬ すけえ











男さつふと紙 惠慶法師

二紙 新交まはせら勢を解あつとわあふは精あふい  
孫りさうさうい

一見金了

一紙 孫りさうさうい 息をわすれ若らうこそとわあふ

じついつーはらとあふぬ井

僻事抄云い第ニ句  
文ふまふとん  
多権一保之

じついつーはらとあふぬ井  
四十九日 中陰ノト すとる余見

秋を乃らおあふわあふまふあふらあふら  
あふら



拾遺和歌集卷第八

雜上

月紙刀侍と

中務綿具平親王

せよあふ物知りなるとあひまはたれとていふあふん

清原家屏風よ 曾うと

物事わらふ所よふくは月紙と云はれ侍らひの事

りふとくわくわくけしなは月紙えんわく

大江為基

あふふ物事れはくさむ月がくそわわの

法師あふむじとあひいしら侍らひ月とえんわく

藤原季長

あふふ物事れはくさむ月がくそわわの

冷泉院のあふむ侍らひくそわわの

ふれこのことしらのそわわの

藤原仲文

あふふ物事れはくさむ月がくそわわの

系議をよとあふ月のあふむ侍らひくそわわの

こふふとせううこひのそわわの

伊保

あふふ物事れはくさむ月がくそわわの











くまのこゝろをたのむにせしむるはたのこゝろに

忠見

只今乃松乃木をたのむにせしむるはたのこゝろに

延長清時屏風よ つゝめよ

あつたにちか松せしむるはたのこゝろに

延長清時大井よ新をわらへん

かきと松をたのむに

大井乃松よとらんからみ松をわらへん

信吉よとらんからみ松をわらへん

あつたにちか松せしむるはたのこゝろに

あつたにちか松せしむるはたのこゝろに

み松乃内侍乃のこゝろに

ひつらめよと 伊珠

海のこゝろにちか松乃木をたのむに

物下乃ちか松乃木をたのむに

あつたにちか松せしむるはたのこゝろに

あつたに

あつたにちか松せしむるはたのこゝろに

あつたにちか松せしむるはたのこゝろに

あつたにちか松せしむるはたのこゝろに











冬より月掛つゝもたぢはるも家内風とせしやせてしりぬ

題一ら原 ひねりうら

月草の夜半ふじあつち梅もぬれぬらるちのぬぬ  
ららよふ金をりあはどちかたをさるち梅もぬぬ  
冬よりあつちよふ金ぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ

贈る政大后 著

あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ

あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ

中宮長根歌 御屏風

作珠

あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ  
あつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつち梅もぬぬあつちのぬぬ







山城よりあは

なる神のよきふりこたへま家たてつる上はふりか

詠葉

伊勢のよきあはまじ今もよきもあはれをうたへて

歌一ら次

つゆい

念ふ言ふを思ひあはれにゆきまよ新敷をたへ

伊勢のよきあはまじ今もよきもあはれをうたへて

くまら

けふの海よあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

天曆十一年九月十五日并ふふふふふふふふふふ

にらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

津御女

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

園鞆院沖時並ふふふふふふふふふふふふふふふ

并ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

齊宮の女津

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

くまら

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ



小一係乃大信よりわかれぬ後乃家乃信ら  
つるぬふは信乃とさす信乃

小野乃大政乃信

なまぬくはあはれおとそひのつる  
な大信乃つらみとのた大信乃じふよりわ  
つらきころのこはあよとせく信乃

愛高

なまぬくはあはれおとそひのつる  
な大信乃つらみとのた大信乃じふよりわ  
つらきころのこはあよとせく信乃

りしよき

ゆき乃無草乃わあきつはれんかよんを  
新しよき 中務

ふみ乃あま世乃せくもあてはる由乃あ  
おあよとせくは信乃はあしあ  
よとせくは信乃 中務

あま乃あまのあま乃あま乃あま乃あま乃  
神明寺乃あま乃あま乃あま乃あま乃  
あま乃あま乃あま乃あま乃あま乃

あま乃あま乃あま乃あま乃あま乃



二葉右大臣の道長作伯清忠とありしこと  
正せしむるにうじ事ゆらありの事ありし  
とわきりしちよてよる人ゆら

浪の波うつ極まじるにせく食の事よあるもの  
なりしゆらわらうとてきりて書らわ  
なりとみく

う記世よの事ゆらて記よるわらわらゆら  
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
よあせゆらゆらゆら

徳景明

よひ金よの事ゆらゆらゆらゆらゆら  
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

帯にゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら







新しう原

ふん金すん

春は花のいよまはくは物乃あれ秋は月夜  
赤鞆院乃う今くひと都公とつた  
とせと物せと換えん

大納言初光

はわのまの建とてお記多る者しつとてん  
みゆ孫とみ孫とていゆり家

衆議侍衛

あはれがふいとけいふれ秋の葉乃おのつん  
あはれ

さけらるるさう秋葉乃おのつん  
あはれ

秋葉乃おのつんあはれ  
あはれ

らむら松乃おのつんあはれ  
あはれ

松乃おのつんあはれ  
あはれ

白妙乃おのつんあはれ  
あはれ







健守法師佛名乃のうゝよふわらふる  
くろくしつひ津らうしきり

徳経房朝長

おまぬすもあましくいふく  
念時やよきと成るる

也ー  
健守法師

あふものうもあてふみしを  
屏風は法師乃あまのうゝ  
まいたる

右大将道徳母

いふ海あはれあふそわ  
四むわくのあまはあ  
わらわらわらわらわらわら

うらひあふすくひて  
まひあふすくひて

勅まはつとひ  
わくうせき

あふ新よせ  
おくゆけあま

とひひ  
壽言法師

あまは  
月夜人伝く

あふ  
あふ



かしこもかくしつゆけりかゝるの見ゆへに  
あこけりかゝるてあそびの世にゆへに

伊珠

うしろの衣をききし川の氷あきしわが引ぬは  
能宣は車のかもとあひまひらしてゆへに  
ゆへすとつひくゆへし

藤原仲文

あかきとまるとふあかきかきかきとまはし  
ゆへに  
ゆへに  
ゆへに

庵義公家のかゝるりわがゆへに  
ゆへに

惠慶法師

あまのゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへに

そとみ

雅波のまをゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに















はるかにあつたるはれはたてふらんよらんはれはれ  
みらるよあつたるはれはれはれはれはれはれはれはれ  
えつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あつ

あつた

みらるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

廣義と愛れはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あつたるはれ

藤原為頼

あつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ  
あつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ  
あつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あつたるはれ

藤原為頼

あつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

藤原為頼

あつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

大隅守とらへはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あつたるはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ







































いふにたつたふとある一のくみとらとわあふふ海は海は海は

松のまいた

清原元捕

ふを揚る松のまいたふとじまにけつふとふとふとふとふと

松のまいた

うねとわ

ういへる時とわとれ何とふとふとふとふとふとふと

天禄元年大霖しと風俗も世絶し

ふとふと

あつちからいせつとふとふとふとふとふとふと

あつちからいせつ

あつちからいせつ

あつちからいせつとふとふとふとふとふとふと

あつちからいせつ

あつちからいせつ

あつちからいせつとふとふとふとふとふとふと

あつちからいせつ

あつちからいせつとふとふとふとふとふとふと

あつちからいせつ

あつちからいせつ

あつちからいせつとふとふとふとふとふとふと

あつちからいせつ

あつちからいせつ

あつちからいせつとふとふとふとふとふとふと

あつちからいせつ

あつちからいせつとふとふとふとふとふとふと







07



Handwritten notes in the bottom left corner of the left page, including the number '10' and some illegible characters.



Small handwritten mark or character on the left edge of the right page.





